

『Shantti』通巻No.282 2015年10月1日発行（1・4・7・10月の1日発行）  
1000円（税込） 第三種郵便物取扱承認

# Shantti

Shantti  
Shantti

2015年10月  
あき

282

本の力を、  
生きる力に。



公益社団法人  
Shantti国際ボランティア会



世界には、紛争、貧困、自然災害などで、  
本を手にする事ができない人たちがいます。

本を通して、文字を覚えることができます。  
先人の叡智や歴史から学ぶことができます。  
世界への視野を広げることができます。  
そして何より、人の喜びや悲しみを  
理解することができます。

より厳しい状況にあつては、本を読むそのひと時が、  
厳しい現実を忘れさせてくれたり、  
心の安らぎを取り戻させてくれたり、  
打ちのめされている状況から立ち直るための  
きっかけになることもあるのです。

本を手にする事は、  
人間が平等に与えられるべき権利だと、  
私たちは、信じています。

# Index

シヤンテイ 282号 目次

## 4 定点観測…アジアから

カンボジア／ラオス／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ  
アフガニスタン／ミャンマー

## 9 特集 本の力を、生きる力に。

## 22 世界の絵本を読んでみよう

「赤ちゃんソウのララ」創作絵本 カンボジア

## 24 シヤンテイな人たち

小高二子／甘利友美 日本郵船株式会社

## 26 定点観測…アジアから

岩手／気仙沼／山元

## 29 わたしたちのお祭り

ミャンマー事務所

## 30 日本しゃんていな旅

神応院

## 31 おしらせ／編集後記

巻末言「道」 理事 下澤嶽

表紙写真：カンボジア・バンテイミンチェイ州の学校で  
(2013年：川畑嘉文)

カオイダン難民キャンプに開いた常設図書館  
(1980年代初め)





私たちがいなくなっても、図書館が育っていくために

報告：萩原宏子（カンボジア事務所）

カンボジア **Cambodia**

「先生、いい笑顔で！」カメラを前に緊張した面持ちの図書館員ボン・ソバル先生（写真）。笑顔になってくれたところを、パチリ。先生が持っているのは、カンボジア教育省が初めて主導した「認定図書館員研修」の受講証。カンボジアには図書館員の育成制度がなく、これまでシャンティのようなNGOが研修を行ってきたため、省が自ら研修を主導したのは画期的なことでした。内戦の傷跡が残る中で、小学校での移動図書館活動を始めてから20年超。「私もやりたい！」との先生の声に答えてシャンティは研修会を行い、「教育省の図書館人材育成を」との声に押され、省内の人材育成を行いました。

今も小学校の約半数には図書館がなく、すべきことは多々ありますが、政府がその役割をこれまで以上に担っていくことが大切です。シャンティは2015年で学校図書館の支援事業を終了しますが、今後も学校図書館の政策づくりの支援を続けます。

いつか私たちがいなくなっても、未来を生きる子どもたちが、素敵な図書館で本を読むことができるように。



少数民族の子どもたちにも学ぶ機会を

Laos ラオス

報告：加瀬貴（ラオス事務所）

ルアンパバーンに事務所を開設してから1年半が経ち、少数民族出身の職員も新たに加わりました。シャンティの一員になったヴィエンサワン職員（写真右・ヴィエンカム郡の学校で）は、ウドムサイ県生まれの少数民族です。

「事業地には、多くのカム族が住んでいます。彼らの教育が少しでも改善するようにお手伝いをして、職員採用に応募しました」。公用語であるラオス語の普及について話を聞くと、「カム族の子どもたちの多くが、小学校に入るまで公用語を話す機会がありません。ラオス語を習得することで、ラジオやテレビ、読書を通じて、多くの情報が手に入るようになります」と答えてくれました。なによりも、「他の民族とも積極的に交流してほしい。生まれ育った村だけでなく、外の世界を知り、自分の可能性を広げてほしいと思っています。私もそうすることたくさん学びを得ていますから」と語ってくれました。

民族の違いを超えて、人びとの可能性が少しでも増えるよう、教育を通じた支援を続けていきたいです。





ミャンマー図書館事業が2年目を迎えます

報告：長沢有華（ミャンマー事務所）

ミャンマー Myanmar

昨年7月から開始した公共図書館での児童サービス支援から1年が経ちました。最初の1年はピー県の6館を対象にしました。「絵本の読み聞かせ? 児童スペース?」子どもたちや住民、職員にとっても初めてのことで、全てが手探りの状態から始まりました。昨年12月の児童スペースのオープン、今年2月の三輪バイクによる移動図書館活動開始、職員にとっても何もかもが挑戦でした。

7月に行った全館合同の四半期会議にて各図書館と1年間を振り返ったところ、「図書館がより身近な場所に」「読書習慣の高まり」といった声が聞かれました。まだまだ課題はありますが、それぞれの図書館にて児童サービスに馴染みがでてきたことを実感した会議となりました。

今年にはピー県の6館に加え、隣のタヤワダイ県の公共図書館8館へ支援対象を拡大します。ミャンマーで2年目を迎える児童サービス支援、さらに多くの子どもたちへ絵本と読書の機会を届けていきます。

これらの活動は「日本NGO連携無償資金協力」の助成を受けて実施しています。

# 本のかを、 生きるかに。

特集

国際協力や震災の緊急救援の現場において、食料や医療、保健といった分野が支援として優先される。人間が生きるために衣食住が必要であることは疑いようのない事実である。  
では本はどうか? その問いと常に向き合いながら、シャンティは35年間図書館活動を行ってきた。

難民キャンプでの移動図書館。台に並べた中から読みたい本を選ぶ（1980年代初め）



# “図書館があるから、今の私があるのです。”

ニミット・マン Nimmith Man

スパイ容疑をかけられ処刑されたり、強制労働に耐え切れずカンボジア国民の4〜5人に1人に当たる200万人が亡くなったボル・ポト政権下、家族全員を失った少年が、自分の足で立ち、生きていくことを決めたのは、難民キャンプに図書館があったからです。そのような少年時代を過ごしたニミット氏に話を聞きました。

(聞き手・鎌倉幸子)



ニミット・マン Nimmith Man

ジュネーブにある国際労働機関 (ILO) / 国際金融公社 (IFC) のベターワーク (より良い仕事) グローバル計画 (Better Work Global Program) 諮問委員会のメンバーとしてカンボジアの The Arbitration Council で専門家として勤務。労働者と企業の間立ち仲裁を行なう専門家。

## 一人ぼっちになってしまった僕

1975年から79年まで続いたボル・ポト政権下で、両親は処刑され、兄弟は飢

えました。「ベトナムの逆にあるタイに逃げよう」。飢餓で蝕まれた体を引きずりながら、タイを目指しました。

タイにあった難民キャンプにたどり着いた時、僕は15歳になっていました。難民キャンプに逃れたとはいえ、親も兄弟も亡くした自分は一人ぼっちでした。寂しかったです。僕と同じような境遇の子どもたちと一緒に孤児院での生活が始まりました。そのうち、難民キャンプの中に小学校ができました。辛い戦争の経験は、僕からすべての知識を奪っていました。それまで勉強してきたことが頭の中に残っていませんでした。16歳でしたが、学力を考慮して入れられたのは小学校3年生のクラスでした。

## 図書館との出会い、そして難民キャンプからパリへ

ある日クラスメートが興奮気味にかけよってきました。「近くに図書館というも

のができた。放課後行ってみよう」と。図書館には生まれ一度も行ったことがありませんでした。建物の中をおそるおそるのぞきこむ僕を、笑顔で迎えてくれた大人がいました。そこで働く図書館員でした。年齢も、性別も、親がいるかないか関係なく通える場所がこの世の中にあっ

た。僕は、強制労働に耐え切れずカンボジア国民の4〜5人に1人に当たる200万人が亡くなったボル・ポト政権下、家族全員を失った少年が、自分の足で立ち、生きていくことを決めたのは、難民キャンプに図書館があったからです。そのような少年時代を過ごしたニミット氏に話を聞きました。

も自分の命もここまでか、と思いました。ボル・ポト時代は隣国のベトナムがカンボジアに軍事侵攻をして幕を閉じました。恐怖政治が終わった喜びよりも、隣国が攻めてきたというニュースに人々は青ざめ

ことに衝撃を受けました。

そこには様々な「本」がありました。健康に関する本など、生活に必要な情報を伝えてくれました。クメール語だけではなく英語の本も置かれていました。僕は、毎日図書館に通い、本をむさぼるように読みました。図書館に通うと未来へつながる道が見えるようでした。

1991年、フランスのパリでカンボジアの内戦終結に向けた和平交渉が行なわれることになりました。戦争の歴史に幕を閉じるという歴史的な瞬間に立ち会いたいと思う人がたくさんいた中、難民キャンプからの使節団のメンバーの一人として僕が選ばれたのです。祖国を良くしたいという強い思いはもちろん、状況の理解やコミュニケーション力が買われたので選ばれたと聞きました。これも図書館で外国の文化にふれたり、聞く、話す、読む、書く力をつけたからだと思っています。



難民キャンプ時代のニミットさん(後列左端)



## 僕ができることは、 社会に恩返しをする

その時身につけた語学力や得られた知識があったからこそ、オーストラリアに渡り法律を専攻し、博士課程で学ぶ機会を得ました。あとは卒業論文を書くだけとなりました。そして今、カンボジアに戻り、貧しいというだけで不当な扱いを受ける人々を救うべく民事裁判に関係した仕事をしています。そのチャンスくれたのはあの難民キャンプの図書館なのです。

難民だったころは、人から支援をもらってはかりでした。今度は、私が入るために役に立ちたい、恩返しをしたいと思っています。図書館という宝物を届けてくれた、日本の皆さまに心より御礼申し上げます。カンボジアではシャンティなどの協力もあり、小学校への図書館の設置が進んでいます。子どもたちが気軽に通える、魅力的な図書館がこの国にもっともっと増えることを願ってやみません。そして僕のように図書館に来たことで、未来を切り開く

ことのできる子どもがカンボジアで増えたらと願っています。本を開くことは、未来を拓くこと。そう信じています。



現在はカンボジアのThe Arbitration Councilで専門家として勤務している

## 難民キャンプの図書館

アジア地域ディレクター 八木沢克昌談

ニミットさんがいた「サイト2」の図書館にもJSRC(曹洞宗東南アジア難民救済会議)のシャンティの旧称が本を提供していました。当時、砲弾の音が聞こえる国境でクメール語の本を探し、印刷していたのです。シャンティの図書館活動の原点は、難民キャンプにありました。

何の役に立つのか。少なくとも、本は難民たちの生きる希望になりました。壮絶な人生を歩んでいた難民の方たち。先人の苦勞を読んだりすることで、自分を励ましてくれる本があるということが「生きる原動力」になっていました。すべてを奪われた状態の中で、文化的なアイデンティティが誇りとなっていたのです。

現在でも、タイのゴミ山で、ゴミを拾い集めている親子が見つけた本を読んでいる姿を見かけます。こんな状態でも人は本を読む。困難な中でも本が読めること。それが人間の証なのだと感じます。

# 本を開くことは 未来を拓くこと。

鎌倉幸子

本は人にとってぜいたく品なのか？  
衣食住が満たされるのを待ってから、享受されるべきものなのだろうか。  
私自身は1999年にシャンティに入ってから、カンボジア、東京、東北で、図書館事業を見つめてきた。本の力は、どうして生きる力につながるのか。  
このページを読んでくれた皆さんと考えていければと思っている。

## 心の乾きに 水を与えるがごとく

1980年にタイにあるカンボジアの難

民キャンプに入った時、見た光景は飢餓にあえぎ死線をさまよう難民たちの姿であった。「まるで絵巻物の『飢餓草紙』だ」と、当時の報告書には書かれている。  
文化や知識を完全に否定したボル・ポト

### 鎌倉幸子 かまくら・さちこ

広報課長兼東日本大震災図書館事業アドバイザー。青森県弘前市生まれ。1999年、シャンティ国際ボランティア会に入職、カンボジアへ赴任し図書館事業課コーディネーターとして500を超える小学校に図書室を設置する。2007年に帰国し、同団体東京事務所勤務。2011年の東日本大震災発生後、「いわてを走る移動図書館プロジェクト」を立ち上げる。著書に『走れ！移動図書館』（ちくまプリマー新書）がある。



政権(1975〜1979年)崩壊後、学校に通うことができなかつた子どもたちの教育支援の必要性が高まることは予想された。そして難民キャンプで出会った子どもたちが私たちに向けていた力のない眼差し





カンボジア難民の子ども(1980年代初め)

それでも人々は、目に見えない「心の乾き」があった。衣食住は、人々の体を守ってくれ。でも「心」や「頭」を育てる栄養も同時に届けることが必要なのだ。

これは東日本大震災の現場でも聞かれた言葉である。最初の1週間は生きること、で精一杯だった。それから1カ月は、体の健康をどうやって保つかを考えた。でも2カ月経つころには心が乾いていることを実感した、と。炊き出しを受けても、満たされぬ心へ届けた栄養の一つとして「本」が上げられていたのだ。

### ことばに触れる環境を。 人にふれる機会を。

シヤンティは「おはなし」を大切にしている。ただ本を子どもたちに渡して読書を強要することはない。おはなしができる先生や図書館員を育てるべく、どの国でも研修会を開催している。

子どもの成長の過程を考えても「おはなし」が原点となる。生まれてすぐの赤ちゃん



カンボジア難民キャンプの図書館で(1980年代初め)

はことばを持っていない。どうやってことばを得るか。それは、耳から入ることばからである。聞く、話す、読む、書くというプロセスの最初にあるものが「聞く」ことであれば、小さい時にどれだけのことばに触れる体験をするかが大切である。

また安心してことばに触れる環境を作る

があった。「飢餓の中、両親を殺され喜びや悲しみの感情を表すことさえ忘れてしまった人々」がいたのだ。表情もなくなってしまう子どもたちが、歓声を上げる活動ができなにか、と議論をした先に生まれたのが「移動図書館活動」であった。

難民キャンプでは国連などによる食料配布は行なわれていた。病院も作られていた。

ことが重要となる。シヤンティは紛争や貧困に苦しむ土地で図書館の活動を行っている。常設の図書館を建設・運営をしたり、辺境地を移動図書館車と共に巡回している。

戦争しか知らないで育った子どもたちが、この世界には図書館という安心して集える場所が存在することを知ってほしい。そして自分のほうを見て、生の声で語りかけて



バンテイミンチェイ州の学校で(2013年 写真:川畑嘉文)



バンテイミンチェイ州の学校図書室で(2013年 写真:川畑嘉文)

くれる大人が存在すると感じるだけでも、これから生きていく上でどれだけの支えになるか。

図書館は一人の、みんなの居場所となりえる。

日本は無縁社会が加速しているといわれている。その中で、図書館ができることにつ

いての議論が近年されている。昭和に作られ高齢化が進む団地でこそ移動図書館が必要という声もある。日本でも「居場所」となる図書館の存在意義はある。

### 学ぶことは権利である。

1985年、ユネスコ国際成人教育会議で採択された「学習権宣言」では、学習の権利とは「読み書きの権利であり、問い続け、深く考える権利であり、想像し創造する権利であり、自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり、あらゆる教育の手立てを得る権利であり、個人的・集団的力量を発達させる権利」と書かれている。

人間は生まれる場所は選べない。でも学習する権利は平等に持つてもらいたい。シヤンティは願い、活動を行っている。学校教育の中はもちろん生涯学習・社会教育の場として、これからも図書館活動を行っていく。





高橋正英 たかはし・しゅうえい

僧侶

京都大学文学部卒業後、大本山永平寺に入山。送行後、曹洞宗総合研究センター教化研修部門国際布教課程に在籍。1年間西欧州の禅道場を訪ねる。2010年より北海道北斗市広徳寺副住職。

行くにも手持ちかばんに入れていた、私には大切な一冊です。特に海外滞在時、日本語が恋しい耳にはしみいるようで、小さくても声にだして読むとその独特なリズムに、心が大きくなる。死を前にして書かれた肺炎詩篇は、読む人に生きるとは何かを切実に問いかけてきます。どんなつらいときも、どんな嬉しいときも、そしてまた死を前にして手は熱く足は思うように動かなくても、私は「塔を建てるもの」だと賢治は言います。いかなる状況でも生きることを諦めない、誠実に生きるその姿は、私の背筋をピンと立て直すのです。



宮沢賢治詩集  
岩波文庫

谷川俊太郎さんの父である谷川徹三さんによって編纂された宮沢賢治詩集。学生のとき、修行のとき、旅先で、海外で、どこへ



市川斉 いちかわ・ひとし

ジャンティ国際ボランティア会常務理事

1995年発災した阪神淡路大震災の神戸事務所長。2003年アフガニスタン事務所長。13年4月より現職。国際協力NGOセンター(JANIC)理事。著書は『ハジババと1000頭のロバ〜震災・神戸からアフガニスタンへ〜』(筒井書房)他。

病院内にある小さな文庫を発見。そこで、見つけたのが、山崎豊子著『沈まぬ太陽』だった。主人公は実在した人物であり航空会社に勤務する恩地。お客様不在の風土を変えたいと奔走したが、理不尽な人事により海外転勤。10年で戻されるものの、御巢鷹山での航空機墜落事故が起きてしまう。その遺族対応に誠意を持って対応した恩地に待ち受けていたのが、ナイロビへの再転勤であった。アフリカの大地に沈む夕日を見て、何を考えたのだろうと思いをはせる。彼の思いを察したら自分の悩みが小さく思え、入院中の私の心を支えた一冊。



沈まぬ太陽  
山崎豊子【著】

10年前、海外赴任が終了直前に難病を発症し帰国。見通しのない長期入院は、人として生きる尊厳を奪っていく。心が折れそうな時、

# 元気をもらった1冊



ぐりとぐら  
中川李枝子【文】  
大村百合子【絵】  
福音館書店

私は母に幼稚園の頃から絵本を読んでもらい育ちました。小さな動物の絵本が大好きでした。絵本に出てくる動物を動物園に実際に行くのが楽しみでした。映画もよく観に行ったりして覚えていきます。絵本を通して世界を広げ、夢を持つことの大切さを学びました。

サッカーを続けられたのもプロのサッカー選手になりたいという夢があったからです。2年前からミャンマー難民キャンプで「世界難民の日」にサッカーを教えています。「どんな環境でも夢を持つこと。友情やチームワークの大切さ」を、伝えていきます。図書館では絵本『夢は、ワールドカップ』を子どもたちと一緒に読んだのが忘れられません。(談)



本田慎之介 ほんだ・しんのすけ  
サッカーコーチ

Jリーグ、ジュビロ磐田に所属後、タイやインドのプロリーグで活躍。現在、バンコクのクレールFCのコーチとして子どもたちにサッカーを指導。



食と日本人の知恵  
小泉武夫【著】  
岩波現代文庫

この本に出会ったのは10年ちょっと前、不妊治療を始めた頃でした。体質改善のため食生活を見直そうと考えていた時に、和食の奥深さ・面白さを教えてくれたもので、料理を習い、和食・発酵食を中心とした食事に変えていくうちに、妊娠し、長年悩んでいたアレルギー・虚弱体質が治っていきました。また、健康的な食は、健全な体と心を作り上げ、困難にあった時も前向きに進む力を与えてくれていてと実感します。この本を読むと、世界に誇る食文化を育んできた日本人の秀逸さに圧倒させられ、もっと和食を食べたくなります。そして、この素晴らしい文化を私たちが守り引き継いでいきたいと思うのです。



伊藤協子 いとう・きょうこ  
株式会社コルコル代表/  
食育フードコーディネーター

元ミネソタ州立大学社会学部卒業。2009年より、体に優しい食品・商品を扱う通販ショップ「コルコル」を経営。2014年より「コルコル食育塾」を開設し、料理教室・食育講座・農業体験などの企画・開催をしている。  
株式会社コルコル：<http://www.cor-cor.jp/index.php>



# すべての人へ 本を届けたい

「野間読書推進賞」  
受賞団体からの学び

年間8万冊の新刊が発行されているこの日本で、読書の機会を限定されている人たちがいます。「見えない」が「読めない」ということにつながっていた、視覚障がい者です。その方たちへの読書サービスを数十年にわたり続けてこられた2団体は、永年読書普及に力を尽くしているとして昨年、読書推進運動協議会から表彰されました。本が「読めない」ことの不利益、どう読書の機会を届けるのか。2団体の経験から、ボランティアが学べることは多くあります。本が与える喜びと力を、すべての人へ届けたい、その願いとともに。



特定非営利活動法人  
函館視覚障害者図書館  
館長

森田直子さん

函館視覚障害者図書館の  
活動内容を教えてください。

視覚障害をお持ちの方々のために、図書や雑誌等の点字版や録音版を製作し、提供しています。情報化社会に対応していけるようにと、利用者に音声パソコンの使い方を指導しています。また、利

用者から強い要望があった「代読・代筆業務」も行っています。これは、個人にとって最も必要な生活情報を、厳しい守秘義務のもと専門技術を持つ職員が対応するものです。この業務は、即時に個人に必要な情報を受け取ることができると好評です。

視覚障害によって、  
どのような不利益があるか、  
教えてください。

現代社会における情報の取得は、80%が視覚によるものです。例えば震災や洪水といった災害時に、視覚障害による避難の困難と避難所においての情報の障害

この50年で読書環境は  
どう変化しましたか。

は、生命にかかわるものです。やっと辿り着いた避難所では、情報のほとんどが墨字（点字）に対して晴眼者の活字）によるものです。例えば食料の配給時間、給水やトイレはどこなのか、数字も矢印も見えないのです。申請書は勿論、重要な情報は墨字で配布されます。

活動を始めた1967年ころは点字版の本がボランティアの手によってわずかに製作されていた程度でした。それを、本を朗読して録音版にしようというボランティア活動が起こり、視覚障害者



の図書が少しずつ増え始めました。しかし、完成までに要する時間は一年以上でしたから、ベストセラーも、そうではなくなった頃に聞くというものでした。2000年頃から当館の音訳グループは、デジジー（※注釈1）編集というパソコンによる録音版の作成に、いち早く取り組みました。デジジー図書は、利用者がページごとに本を聞くことができるという画期的なものです。デジタル録音により訂正箇所処理が簡便になったために、ボランティアはパソコンを使って

テープ録音時の何倍もの早さで図書を音訳できるようになりました。そして、インターネットの普及によりサビエ図書館（※注釈2）が全国のボランティアが製作した点字版、音訳版、テキストデジジー図書を貸し出し、利用者は自宅の音声パソコンで、ダウンロードもできるような読書環境となりました。今やベストセラーはベストセラー期間に、様々な媒介を通して聞くことができるようになったのです。

活動なさっている中で、  
「本がこの方の力になって  
いるのだ」と感じられた  
ことがありますか。

ある日、突如として目が見えなくなっ  
てしまった途中失明の方が、毎日生きる  
のが辛いと苦しんでいらっしやいました。  
しかし、デジジー図書を借りるよう  
になってからは、どんどん生きること  
に積極的になり、「読書の喜び」が「生きる  
喜び」につながったというご家族からの  
電話や、お手紙を頂くたびに、当館の活  
動は継続していかねければならないとい  
う励みになっています。



特定非営利活動法人  
岩手音声訳の会  
代表

神厚子さん

岩手音声訳の会の  
活動内容を教えてください。

岩手県立視覚障がい者情報センター  
の録音図書製作奉仕員の会です。また、  
対面朗読も行っています。会ではわかり  
やすく、正確な図書を迅速に製作するた  
めに勉強会を多数開催し、研修への派遣  
も行っています。

「視覚障がい者の情報環境を  
整える」ということの  
重要性について。

情報を受け取る比率は視覚が87%と圧倒的に高く、視覚障がい者が生活上、仕事上の情報入手する困難さが大きいと言えます。2016年4月から「障害者差別禁止法」が施行されるに伴い、市



# 本の力をもっと知る6冊



## 時間のかかる読書

宮沢 章夫著／河出文庫／2014年

脱線、飛躍、妄想、停滞、誤読、のろろと、そしてぐずぐずと。1時間ほどで読み終わる横光利一の短篇小説「機械」を11年余の時間を費やして読み解いた連載をまとめた。著者の本の味わい方を追体験できる興味深い一冊。



## 14歳の世渡り術 本を味方につける本 自分が変わる読書術

永江 朗著／河出書房新社／2012年  
本は探さなくていい、バラバラにしていい、内容を忘れていい、歯磨きをしながら読んでいい。読書の意味、技術、心構えが親しみやすく書かれている。読書術の基礎をあらためて身につけたい人に。



## 橋をかける 子供時代の読書の思い出

美智子著／文春文庫／2009年  
「読書は私に、悲しみや喜びにつき、思い巡らす機会を与えてくれました。戦時中に少女時代をすごされた美智子さまが読書の思い出を語りながら、時代を顧み、子どもの将来の希望と平和を祈る。1998年国際児童図書評議会 (IBBY) 世界大会、2002年IBBY50周年記念大会での講演録。



## 読書は心の翼 親と子とわたしの読書体験

井上 路望・折原 ひと・志茂田 景樹著／ポプラ社／2000年

小学生からお年寄りまで、心に残る自分の読書体験を綴った64編を収録。折原ひとや志茂田景樹など人気作家の体験もあわせて、あらためて読書の深遠さに迫る。



## 世界と闘う「読書術」 思想を鍛える一〇〇〇冊

佐高 信・佐藤 優著／集英社新書／2013年

宗教・民族と国家、戦争・組織、社畜とブラック企業。難問が山積する世界と向きあい、生き残るための知識を、古今東西の名著、埋もれた問題作から探る。言論界の武闘派コンピによる「知のガイドブック」。



## 生きるということ 読書による道案内

宮田 光雄著／岩波ジュニア新書／1987年

グリム童話やエンデ、フェアマンのなじみ深い文学作品のなかから、孤独や幻滅をのりこえて本当の自分を見出し、みんなとともに力強く生きる若者の姿を描きだして、いかに生きるかを語りかける。

数年前に漫画の録音図書の研修会に参加したときのことです。17歳で失明した利用者が「毎週楽しみにしていた連載漫画がもう読めないんですよ。わかりませんか。」といったことが忘れられませんが、同じような経験が無数にあるのだと思います。その方は今、毎週漫画誌を買っていつも集まる仲間を読んでもらっているそうです。

「読書の喜び」について、  
利用者の声を  
お聞かせください。

民生活に必要なものはすべての人に合理的な形で提供されることが期待されますが、容易では無いと思われれます。また、録音図書は以前に比べ充実してきていますが、毎年出版される図書8万タイトルに対して2万タイトルにすぎず十分とはいえません。

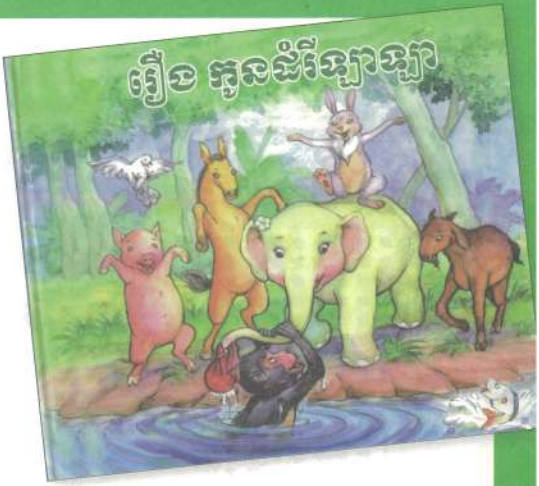
活動なさっている中で、「本がこの方の力になっていくのだ」と感じられたことがありましたか。  
会ではマルチメディアデザイナー図書製作のお手伝いをしています。諦めていた学習の機会や一人での読書を手に入れた喜びの声が多数寄せられています。さらに充実したものにするため、協力していきたいと思っています。



※1 デイジー (DAS) とは、視覚障がい者や普通の印刷物を読むことが困難な人々のためのデジタル録音図書の国際標準規格。50カ国以上の会員団体で構成するデイジーコンソーシアム (本部スイス) により開発と維持が行なわれている情報システム。目次から読みたい章や節、任意のページに飛ぶことができる、マルチメディアデイジー図書は音声にテキスト、画像をシンクロ (同期) させることができるなどの特徴がある。Digital Accessible Information System の略。

※2 「サビエ」は、視覚障がい者及び視覚による表現の認識に障がいのある方々に対して点字、デイジーデータをはじめ、暮らしに密着した地域・生活情報などさまざまな情報を提供するネットワーク。「サビエ図書館」では、音声などでもわかりやすいホームページから、点字データ16万タイトル以上、音声データ15万タイトル以上がパソコンや携帯電話によってダウンロードできる。





# 赤ちゃんゾウの ララ

世界の絵本を読んでみよう

11

創作絵本  
カンボジア (2012年)

2  
うさぎさんがなげた  
チューニングが  
木の枝に  
ひっかかって  
しまいました  
「ぼくがとってくるよ。  
まかせて!」  
さるくんが  
取ってきました



7  
森のなかで動物たちが  
チューニング投げを  
していました  
「鼻をつかったら  
だめだよ」といわれた  
赤ちゃんゾウの  
ララもいっしょです  
※チューニング  
スカーフを丸めた「チューン  
グ」を歌いながら投げあう、  
カンボジアの伝統的な遊び。



3  
こんどは、  
ララのなげた  
チューニングが  
池におちて  
しまいました  
うさぎさんは  
泳げないから  
とれません。



4  
うまくんが  
足をのぼしましたが、  
とれませんでした



5  
ぶたくんが  
がんばっても  
とれません



6  
さるくんが  
とろうとして、  
池におちて  
しまいました



7  
赤ちゃんゾウの  
ララが  
長い鼻で、  
さるくんを  
助けました

「赤ちゃんゾウのララが、長い鼻で、さるくんを助けました。」



8  
池からチューニングも  
ひろいあげました  
みんなは手をたたいて、  
ララをほめました  
「すごいね。これからは  
鼻をつかっても  
いいことにしようよ」  
みんなはなかよく  
チューニング投げをつづけました

សេនីយោយ វ៉ុយកាម្មា ព្រះភ្នំពិភារា ។  
កែសម្រួលស្របច្បាប់ចម្លង ។

ស្រាប់តែឮសូរ ប្រាប់ ។ គួរតែស្រែកប្រាប់  
អ្នកប្រាសាទិកហើយ ជួយស្រាវជ្រាវ ។

អ្នកសិល្បៈ វ៉ុយកាម្មា ព្រះភ្នំពិភារា ។  
កែសម្រួលស្របច្បាប់ចម្លង ។

មានតែកូនជំនីវឡាខ្មែរ ដែលមានប្រមោយទាញស្នាមខ្សែជិត  
ទឹកមកវិញ រួចនិយាយ ប្រមោយខ្ញុំក៏អាចលោងចាប់យកស្នាម  
ជិតកូនទឹកបានដែរ ។

ស្រាប់តែឮសូរ ប្រាប់ ។ គួរតែស្រែកប្រាប់  
អ្នកប្រាសាទិកហើយ ជួយស្រាវជ្រាវ ។

ពួកគេស្រែកប្រាប់ ។ គួរតែស្រែកប្រាប់  
អ្នកប្រាសាទិកហើយ ជួយស្រាវជ្រាវ ។



# シャンティな 人たち शांति

vol.  
**70**

日本郵船株式会社

小高二子  
おだか・つぎこ

甘利友美  
あまり・ゆみ

小高二子さん（右）、甘利友美さん（左）

日本郵船株式会社

NYK LINE

NYK CRUISE

日本郵船株式会社（以下、日本郵船）の船で「絵本を届ける運動」の絵本を事業地まで運んでいたようになって11年。17万2409冊を数えます。「社会の重要なインフラ」である物流を担う会社として今年10月1日に創業130周年を迎えられました。タンカーや自動車輸送船、客船など、多くの船の模型が展示された本社でお話しを伺いました。



日本郵船さんが支援くださることになったきっかけを教えてください。

小高二さん 10年ほど前、社外勉強会「ボランティア入門講座」で、当時の社会貢献担当者がシヤンティさんと知りあいました。「絵本を届ける運動」で海外への絵本輸送量が急増して苦慮さ

上：社内での「絵本を届ける運動」ワークショップ（日本郵船株式会社提供）中：絵本が詰まった段ボールがコンテナに積み込まれる



れていたことを、シヤンティさんがその担当者へ相談くださったので、そのときからですね。

社会貢献へ取り組み始めた初期からの長いおつきあいですね。

小高二さん 海上輸送は当社の根幹をなす事業です。会社の本業をいかしつつ、社員もワークショップに参加できるシヤンティへの貢献は会社と社員の両輪が生かせる活動だと思っています。

毎年、取り組んでいただいている「絵本を届ける運

動」のワークショップはいかがですか。

甘利さん 申込みを開始すると、すぐ席が埋まってしまいうほど、社員によく知られているし、リーダーが多い人気のボランティアプログラムで、担当者として嬉しいですね。最近では「ラオス語をやってみよう」など、リクエストをもらうほどです。手を動かすだけではなく、シヤンティの職員さんから、現地の活用や子どもの様子などの報告を聞けるのがまた良いと思っています。

担当者としての思いをお聞かせください。

小高二さん ワークショップで途上国の子どものための生活を聞いて、子どもたちの本が無い国があるという事実に驚きました。絵本がなくて、子どもが育つのかなど。自分自身が小学校時代、図書室に通いつめていた体験から、子どもにとって本が必要

年頃があるのだと思っています。「絵本を届ける運動」の作業では、完成した絵本に現地語と日本語の名前を書くのが良いと思います。読み手の子どもの名前や日本名が見えるんですね。貼ってくれた人がいるんだと、日本はどんな国だろうと想像できるのいいなと思います。

甘利さん カンボジアの子どもたちが読んでほろほろになった絵本を見たときは驚きました。いまの自分の生活では、1冊の本をそこまで読むということがないので、訳文を貼っていると、この本を子どもたちがあんなになるまで読んでくれるのだと思うと気持ちが引き締まります。最近、あらためて読書をしているのですが、本を読んでいると世界観が広がり、その感覚が新鮮です。

ありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。（聞き手：清野陽子）





今年もやります、手作り「いかだ」

Japan 気仙沼

報告：畠山友美子（気仙沼事務所）

今夏の「あつまれ、浜わらすー!」、海のプログラムは、「夏休みスペシャル」です。7月末までで51人の子どもが参加しました。

1日目、筏（いかだ）の材料になる竹の特性を学びました。最初は流しそうめん。シャントイ気仙沼事務所を置かせて頂いているお寺・清涼院の長い階段に竹の流し台を設置。そうめんでお腹を満たした後、地域のお年寄りから竹の水鉄砲の作り方を教わりました。

2、3日目は筏づくり。漁業で使う浮きを竹に縛り付ける方法を地域のお年寄りや漁師さんたちから教わり、2日間で3艘の筏を完成させました。

4、5日目、いざ海へ。「あつまれ、浜わらすー!」では子ども達に毎年、海に入るとき気をつけることや救命胴衣の付け方、海面での浮き方などを教えます。まずは海に慣れてから、筏がちゃんと浮かぶか、ドキドキしながら実験です。無事に全ての筏が浮かび、全員ホッとしました。最後は3チーム対抗レースで盛り上がり、スイカ割りで楽しい5日間を締めくくりました。



陸前高田市立図書館と共同で行った災害公営住宅での移動図書館

報告：三木真牙（岩手事務所）

岩手 Japan

陸前高田市で最も早く建設された災害公営住宅である下和田団地には120世帯が暮らしています。待望の公営住宅であることから、入居者は市外に避難されていた方市内の各地区からの入居が多く、自治会の活動も難しさを抱えてスタートしました。

6月22日から市立図書館が移動図書館を開始することになり、岩手事務所もお手伝いしています。

本の貸出は市立図書館が担当し、シャントイはお茶会を開き住民同士が交流できる場づくりを行いました。「移動図書館が来るのを楽しみに待っていたよ」、「移動図書館が来てほしいと願っていた」。

災害公営住宅へ引越する前にいた仮設団地のころ顔なじみだった利用者の方とも再会できました。

買い物不自由で、車を持っていないと乗り合いバスで買い物に行かなければならないこと、工事の砂埃がひどくて窓が開けられない等、お茶会を通じて生活に関わるお話をたくさんしました。

今後もお互いの強みを生かし市立図書館と連携をしていく予定です。



わたしたちの



ミャンマー

# ティンジャン (水かけ祭り)

4月



私が住んでいるピーという小さな町でさえも、道端で住民がバケツを持って待ち構え水をかけてきます。街角にはステージを設置、祭り用の水鉄砲やお面を売り出して賑やかです。ふだんは温厚なミャンマー人が見せる別の一面が興味深かったです。私も自転車で通りすがりに5人がかりで水をかけられ、ずぶ濡れになりました。その後は家に籠もり、おとなしく過ごしました。

(長沢有華)



ミャンマー事務所に1月に赴任しました長沢です。こちらには4月のミャンマー正月を迎える前に、身を清めるために互いに水をかける風習「ティンジャン」という水かけ祭りがあります。ヤンゴンやマンダレーといった大都市を中心に激しい評判の水かけ祭りではありますが、何とも経験と今年は参加してきました。



## 太古の線刻画が未来の希望につながりますように

報告：古賀東彦 (山元事務所)

山元 Japan

復興工事の過程で土を掘り起こし、貝塚が出た、古墳が出たといって工事が中断したというニュースはよく聞かれますが、山元事務所の活動地である山元町(宮城県亘理郡)でも、災害公営住宅等の整備事業計画地内に遺跡があり、2014年から本格的な調査が行われてきました。

国立宮城病院に隣接する「合戦原遺跡」と呼ばれる遺跡がそれで、古墳時代末期までさかのぼる横穴墓が54基も見つかったほか、製鉄炉跡、木炭窯跡なども出てきました。横穴墓のひとつには、人や鳥と思われるユーモラスな絵が壁に刻まれていました(写真)。出土した副葬品に馬具が多いのも特徴で、被葬者の位の高さがうかがえるそうです。

横穴墓や出土品を直に見られる現地説明会には、町民を中心に全国から500人近くが集まりました。

このような珍しい遺跡が、復興の流れを妨げることなく、山元町の文化の宝として残されることを願う人は少なくないと思います。

(写真提供：清橋富夫)





# シャンティからのお知らせ

## ネパール中部地震 被災地支援事業進捗報告

4月25日にネパール中部で発生した大地震から5ヵ月。ヌワコット・ラスワ郡で被害を受けた学校の仮設校舎(244教室)やトイレの再建(※)、学用品、遊具や絵本・図書の提供を通じて子どもたちが安心して学習できる環境整備を進めています。また、ダーディンほか3郡では、夫が出稼ぎで不在中に地震により家が壊れてしまい、生活再建の困難や家庭内暴力などの問題に直面している女性たちのためのシェルター(一時的な避難所、生活相談の場)の建設、子どもの遊び場スペースの設置をしています。復興の歩みは少しずつですが、新しい学校やシェルターを活用する被災地の方たちの笑顔や前向きな姿勢を励みに、10月末まで現地での支援活動を継続する予定です。(※)本活動の一部はジャパン・プラットフォーム(JPF)の支援を受けています。 担当◎緊急救済室



完成した仮設校舎(ヌワコット都スラクシャン小中学校)

## 「世界一大きな授業」に過去最高の参加

180か国のNGOが各国でおこなっている「世界一大きな授業」は、同じ期間に一堂に世界の教育事情について学びます。今年は過去最高の768校・グループ、7万2千人以上が参加しました。

## 人事のお知らせ

- 入職  
新井雅代  
[パート職員] 国内事業課 クラフト・エイド アシスタント(7月21日付)
- 退職  
高橋純司  
[契約職員] 緊急救済室 福島支援担当(7月31日付)  
山本裕理  
[パート職員] 国内事業課 クラフト・エイド担当(7月31日付)
- 異動  
鈴木晶子  
海外事業課から広報課課長へ(9月1日付)  
鎌倉幸子  
広報課課長から広報課課長代行へ(9月1日付)  
吉川次郎  
[嘱託職員] 海外事業経理担当から、海外事業経理担当および福島事業担当(8月1日付)

## 編集後記

「本の力」をどう伝えるのか。この難しいテーマに、読書推進運動協議会ははじめ、さまざまな方にご助言・ご協力をいただきました。その方々への感謝の気持ちを込めてお届けします(清野陽子)

**リサイクル適性**  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

**GREEN PRINTING JPF**  
P-810164

**FSC**  
ミックス  
責任ある木質資源を使用した紙  
FSC® C009309

**VOC FREE™**

「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。

シャンティ 2015年秋 282号 2015年10月1日発行

発行人 若林英  
発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
〒160-0015東京都新宿区大塚町31 慈母会館2・3階  
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220  
WEB: <http://www.sva.or.jp> E-Mail: [info@sva.or.jp](mailto:info@sva.or.jp)  
郵便振替 00150-9-61724

編集人 関尚士  
装丁・レイアウト 矢萩多聞+いわたがさとこ  
印刷 株式会社大川印刷 [定価550円]

©2015. Shanti Volunteer Association. All Rights Reserved. Printed in Japan.  
●当会へのご寄付は、所得税、住民税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

# 日本 しゃんてい な旅

神応院  
じんのおういん



①本堂にて西村英昭住職 ②60人が参加した2015年「アジア祭り」。ボランティア講座で参加者の意見発表 ③「アジア祭り」大槌町の行事で使ってもらったためのキット作り(②③神応院提供)

- 神応院  
広島県 呉市清水
- 周辺のみどころ  
大和ミュージアム(呉駅から徒歩5分)  
アレイからすこじま(呉駅からバス10分)
- アクセス  
JR 呉駅下車。徒歩20分(タクシー7分)。呉駅からバスで「清水一丁目」バス停下車



軍港と海軍工廠で人口が急増した明治時代の呉市に移された神応院。第二次世界大戦で本堂が焼失して昭和45年に再建されるまで、先代住職の時代は苦勞の連続だったとのこと。  
西村英昭住職は駒澤大学在学中に道憲寮に学んでいた縁から有馬実成元専務理事の報告会で曹洞宗ボランティア会(シャンティの旧称)の活動を知り、「慈愛の衣類を届ける運動」に協力いただくなど、シャンティとは古くからおつきあい。1993年に女性グループ「菩提樹の会」を立ち上げて、長く

「絵本を届ける運動」やクラフト・エイド製品の販売に取り組んでいただいている。  
年一回、「アジア祭り」というイベントを開いている。宗派を問わず広く地域の方が参加されて、ボランティア作業とヨガや寄席、健康講話などで1日を楽しく過ごされている。  
日曜学校に通う子どもも宅にカンボジアの影絵劇団がホームステイするなど、草の根の国際交流を拡げるほか、現在では岩手県大槌町の被災者支援のボランティア活動にも取り組んでいる。



## 道



2011年3月の東日本大震災の学生の募金活動

日本の寄付文化が  
徐々に変わりはじめている

## 主體的な 寄付の時代に向かつて

理事 下澤 嶺

最近の研究の一環で、共同募金、日本赤十字社の社費回収の歴史を調べました。これらの募金活動に関心をもつようになったのは、最近「ファンドレイジング」への関心がひときわ高くなり、よく議論されるようになったからです。これらの議論は、たいてい「個人の主體的な寄付」をどう促すかという点が前提条件となつて語られています。つまり、寄付者が自分で判断して、よかれと思つた市民団体に寄付をする行為が前提になっています。個人的な体験から、「個人の主體的な寄付」が市民活動団体の重要な戦略となつていったのは1980年代以後ではないかと思つています。シャ

ンテイの皆さんの歴史も、これに重なるところがあるのではないでしょうか。

それ以前の寄付は、日本社会でどうあったのでしょうか？

私は昭和前期そして戦後の代表的な募金システムのひとつが、共同募金と日本赤十字社の社費の募集だと思つています。どちらの募金も、自治会・町内会等が一軒一軒家を回つて集める、戸口募金が寄付のほとんどを占めています。その額は現在でも380億円近くになります。額

るし、5000円程度ならいいか、といった参加形態に思えます。NGOへの寄付者の姿勢とはかなり異なる「おつきあい寄付」と言えるかもしれません。しかし、これが過去100年近く続き、今も続いていることは驚異です。まさしく日本の寄付文化のひとつと言えます。

本の中の人が参加していることが特徴です。自治会・町内会等の会員の皆さんはおそらく自分たちが「主體的な寄付」をしていると考えていないと思つています。政府がよかれと進めている施策だし（本当は政府でなく官製民間団体ですが）、周りも参加す

しかし、どちらの募金も1996年から98年にかけて減少し始め、下降を続けています。ゆっくりとですが、「個人の主體的な寄付」の増加と入れ替わる構図に見えます。個人の意見をはつきり言わず、周囲にあわせていくことが日本社会では好まれる行動規範であるように思いますが、徐々にそれに替わる寄付文化が生まれてきていることを今回の研究で実感しました。

（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学専攻長教授）